

(仮称)幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)意見一覧

No.	分類	意見・提案の概要
1	全体	「乳児・1歳以上3歳未満児の保育に関する記載の充実」は保育所保育指針など国の方向性である。汐見先生も0歳からの教育が大切と話している。そうであれば、乳児の部分丁寧に記述するべきではないか。 「乳幼児教育支援センター」とあるが、乳幼児という言葉を使うだけでは、乳児の部分をどうするのが分からない。
2	全体	保育施設等が急激に増えている。そのような状況で、今求められていることは「保育者として最低限これとこれは身につけておく必要がある、それを園内でいかに育成することができるか」に尽きる。そこに届くようなセンターとビジョンが必要である。質の向上に向けた具体的な取組みの書き込みが必要。
3	全体	子どもを主体とした書き方にする。 子どもが育つ過程で大人がどのように支援するべきかという視点から、子どもの育ちに関する記載等について、子どもを主体とした書き方に修正する。 例「子どもの様々な経験や興味・関心を引き出し」「子どもが様々な経験を積み重ね、興味・関心を広げ」
4	第1章 【概要版】	「家庭における幼児教育」の3つ目、「保育施設の0～5歳児の入園割合が、年々増加しており、他施設を含めた全体の34%」といった表現の方が分かり易いのでは。(何の34%なのかが分かりづらかった)
5	第1章 【概要版】	「幼稚園・保育所等における幼児教育」の3つめ、「園外への参加促進」に「」をつけた方がよい。 4つめと5つめは、同じアンケート結果なので、2つをまとめた方が読む側には分かり易い。
6	第1章	P2「3 世田谷区及び世田谷区教育委員会におけるこれまでの幼児教育・保育の充実に向けた取組み」は、保育課として進めてきたことと教委が進めてきたことを併記しているが、混在して載せることで伝えたいことがあいまいになるのではと感じた。
7	第1章	P7 幼稚園教員のみ若手の比率が高まっているのか。アンケート調査ではたしかに幼の方が若手の比率は高いが、数年の推移ではないので、幼のみ高まっているかは分からない。
8	第1章	P7 の3つめ「配慮を必要とする子どもが増えている」だと、まるで障害を持ったお子さんが割合的に増えているように捉えられてしまうかもしれないので、「集団生活の中で何らかの困難を抱えた子どもの特質が細分化され、それぞれの対応が求められる状況…」などにした方がいいのでは？発達障害のことを言っているのか、身体的障害のことを言っているのか、合わせたものなのかも分かりづらい。
9	第1章	P7 の4つめ 表現に疑問を感じた。「家庭教育」なのか？「家庭養育」なのか？
10	第1章	P17 「社会環境の変化」のところで、「大人も子どもも「生活力」が低下」「子ども自身が忙しくなりすぎて～」とあるが、何から読み取れるのか。根拠があいまいな気がする。
11	第3章 【概要版】	乳幼児期の育ちの過程 の3つめ「自ら興味や関心」とあるが、何に対してかが分かりづらい。うしろの文の「自分を取り巻く環境」にかかっているのか、それとも他の言葉なのか。
12	第3章 【概要版】	乳幼児期における教育・保育 3行目「できるようになったことを使いながら、いろいろな方法を工夫したりする～」文章が抽象的でよく分からない。
13	第3章	地域とのかかわりについて説明を加える。 地域の役割、地域とどのようにかかわっていくかという視点から説明を加える。

(仮称)幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ)意見一覧

No.	分類	意見・提案の概要
14	第3章	P28 基本理念中、「試行錯誤を育む」は言葉として意味が通らない。 試行錯誤 試し、工夫し、やり遂げようとする力 強い意志 自立と協同・表現と共感・健やかな身体・関心と探求に同列にするならば、「強い意志」あたりが妥当ではないか。 P29の内容説明は重要なことを提示してあると思うが、キーワードとしては「試行錯誤」より「強い意志」がよい。
15	第3章	基本理念の図は分かりやすくなった。 「生きる力」とは？注釈を入れると良い。
16	第3章	育む力の「関心と探求」は、「関心と探究」では？幼稚園教育要領P120では「探究」を使用している。
17	第3章	子どもの育ちにおいて、「愛着・信頼感」に加えて「社会性、協同性、思いやり、思考力、表現力等の芽生え、道徳性の芽生え等」が育つことも記述するするとよいと思う。
18	第3章	P21 から「保育者等」という文言を使っているが、教員(幼稚園教員?)には抵抗を感じるかもしれない。言葉の定義づけが必要。
19	第3章	P23～P30 文科省の10の姿を考慮していると思われるが、「道徳性・規範意識の芽生え」や「社会生活とのかかわり」との関連をどのように見るか、少し薄い気がした。 また、P28の表の「やってみる」のところの文言だが、「理解していること、できることをどう使うか」ということが、幼児期に大切なのか？子どもは、興味をもつと思わずやってみる。その中で、様々なことに「気づいていくのだと思う。「気づく」という中の文言も「？」であり、幼児期の姿とは少し違う印象を持っている。
20	第4章	基本的な視点3について。教員育成指標案が中教審教員養成部会で出されている。
21	第4章	基本的な視点5「家庭・地域との連携」は、未就園児のいる家庭への支援も分かるようにした方がいい。「子育ての支援と家庭・地域との連携」ではどうか。
22	第4章	P33～34 基本的な視点5「家庭・地域との連携」の取組み例に「地域の文化財、文化施設の活用」が入らないか。「参考」として、美術館・図書館・博物館などの幼児・お母さん優先日の設定も考えられる。 幼児優先日には幼児の臨時託児所を開設し、親が安心して施設を利用することができる。 または、幼児と親と一緒にやれるワークショップの開催などを企画する。 幼児を育てる親にも勉強する機会を提供する。
23	第4章	P31 基本的な視点1の取組み例の中で「ことばの力」の育成(教科「日本語」とあるが、(教科「日本語」との関連)といった文言が必要では。幼・保の中に教科そのものが入るように見える。
24	第4章	P32 基本的な視点3「施設全体の専門性～」とあるが、幼稚園やこども園は施設ではなく学校なので、「幼稚園や保育園等全体～」といった文言の方が良い。
25	第4章	P33 基本的な視点4「(仮称)世田谷区幼児教育・保育情報推進連絡会」は、小学校は含まれないのか？
26	第4章	P33 家庭・地域との連携の取組み例で「未就園児の円滑な幼稚園等への就園～」とあるが、ここだけ「幼稚園」だけなのはなぜか？
27	第4章	P34の論点整理の中で、「異なる園種が～」とあるが、幼・保・こ・小の連携なので、「園」だけでは足りないのでは。 保育者等の資質及び専門性の向上のところは、「楽しそうに遊ぶ姿を見せる～」のではなく、「遊びの意味を伝えていけること」が大切なのだと思う。 小学校への接続のところは「小学校がどう歩み寄るか～」は、小の教員が聞くといい気持ちがないのでは。 「愛着を確立するための取組みは幼・保推進ビジョンでも重視～」とは、どういう意味合いか？

(仮称) 幼児教育・保育推進ビジョン(中間取りまとめ) 意見一覧

No.	分類	意見・提案の概要
28	第4章	<p>取組みの視点5 「家庭・地域との連携」が、もっと中身の濃いものになると良い。私自身子育てで地域とのつながりの必要性を感じた。</p> <p>乳児を抱えながら孤独感、孤立感を感じてしまう人も多いはずなので、そういう時期こそ地域での見守りは大切。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての地区が網羅されるようなネットワークができるとよい。 ・情報発信をネットのみならず誰もが行くスーパーなどにも掲示 ・地域の先輩ママが新米ママに声をかけたり、草の根レベルの活動が盛り上がるといい ・「家庭教育」では親としては重たい。「家庭での子育て…」など噛みくだいた表現を。(要約)
29	第5章	小学校との連携について、推進体制に加えるとよいと思う。